

いつもの 暮らしがもしもの “備え”に

AgriPoucher®
コンポスト



生ごみを減らすことは、環境のためだけではなく、

災害時にも役立つ「日常の備え」です。

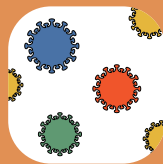
AgriPoucher®コンポストは、いつもの暮らしがそのまま“防災”につながる、新しい暮らし方を提案します。

災害時、こんな困りごとが起きています。



悪臭と害虫の発生

熊本地震（2016年）では、収集停止によって家庭ごみが一週間以上放置され、「避難所の周囲にハエが大量発生」「生ごみの臭いで窓が開けられない」などの声が多く寄せられました。わずかな生ごみでも高温下では半日で腐敗が進み、悪臭が空間全体に広がります。



感染症・衛生リスクの増加

東日本大震災の際には、避難所で胃腸炎や皮膚感染症が多発。原因のひとつが、生ごみの管理不備と衛生状態の悪化でした。災害時は免疫が低下しがちなうえ、水も限られ、菌やウイルスの繁殖が早まります。



ごみ集積所・地域運営の混乱

令和元年の豪雨災害では、「生ごみ」と「がれき」が混在した廃棄物が各地で問題化。悪臭やカビの発生で集積所の運営が滞り、復旧作業の妨げになった例もあります。処理施設が被災すれば、問題はさらに長期化します。

その“困りごと”を、日常の道具で解決できたら？

地域の防災力を高める、 新しい“衛生対策”という選択。

災害時、最も深刻化しやすい課題のひとつが「生活ごみの滞留」と「衛生環境の悪化」。

特に生ごみは腐敗と悪臭が早く、避難所の運営に大きな負荷をかけます。

AgriPoucher®は、自治体の防災備蓄品として、
「平常時と非常時の両方で役立つ“衛生管理ツール”」として注目されています。



AgriPoucher®コンポスト

避難所の衛生管理を大幅に改善

災害時の避難所では、生ごみの処理が追いつかず、悪臭・害虫・カビ・感染症リスクが急速に高まります。AgriPoucher®はその場で発酵・分解するため、ごみの滞留を防ぎ、避難スペースの衛生を守ります。

臭い・害虫を防ぐ

独自の発酵基材が腐敗を防ぎ、虫が寄りつかない。屋内やベランダでも衛生的に使用できます。分解後の残渣は堆肥として再利用。ごみを“資源”に変える循環型の仕組みです。

軽くて扱いやすい

袋型だから備蓄しやすく、運搬も簡単。避難所や自治体の非常用備品としても最適です。

AgriPoucher®ポーチ

水害対策を、もっと身近に。 「育てるバッグ」が、地域を守る備えになる。

近年、日本各地で頻発している豪雨・台風による浸水被害。
住宅への床下・床上浸水は、住民の生活再建に長期的な影響を与えます。
AgriPoucher® Pouchは、平時は植木鉢（植木バッグ）として使い、
有事には止水バッグとして活用できる 新しい防災ツールです。



実際の止水の様子



日常から使える防災を、地域へ。

製品詳細・導入相談はこちら



〒530-0004
大阪府大阪市北区堂島浜1-4-4
アクア堂島フォンターナ3階
<https://chikyu-labo.com/>



Instagram



公式LINE



お問い合わせ